

「日本介護福祉士会設立30周年に当たって」

一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 理事長

辻 哲夫



私は、1987年に国家資格として介護福祉士制度ができる際に、厚生省（当時）の担当者でしたが、同制度導入当時から、この制度が健全に発展する上で自主的な職種団体の設立が期待されておりました。関係者のご努力により1994年に、何年振りかの大雪が降った東京で行われた設立総会の日のことを今でも懐かしく思い出します。

それから30年、介護政策は、介護保険制度の導入、それに引き続く地域包括ケアシステムの展開へと大きく進展しました。

そして、今後は2040年に85歳以上人口が1000万人という正念場を迎えますが、高齢者世帯が、できる限り元気に過ごすことを基本にし、例え弱っても地域コミュニティとともにできる限り自立した生活が継続され、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）が確保できるような在宅サービスが不可欠です。

一方において、介護サービスなくして医療は成り立たない時代の今、医療と介護の連携も重要な課題です。特に利用者のQOLの確保に当たっては、介護福祉士は、病気への対応を基本とする医療系職種と対比すると利用者やその家族の生活や人生の喜びを実現することについて最も専門性を持った職種であることが期待されています。

介護福祉士会が、強い使命感の下で、次の30年を展望して着実に前進され、幸せな高齢社会日本を築かれますよう心より祈念いたします。